

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



ビル産ビル消

多くの企業が本業とは別に、様々な業種に参入しているのは皆さんもご存知の通りです。そのなかで、「農業」に挑戦する企業もあります。農業と言っても一般の農業とは違い、野菜を光や温度を管理した自社ビルや店舗内で生産するというものです。今年に限らず、気候変動などにより、野菜の価格が高騰する中、天候に左右されない「工場生産」が脚光を浴びています。電気代など収益性に課題はあるという事ですが、温暖化や異常気象で野菜栽培が難しくなる中、植物工場での野菜栽培は未来の農業の形の一つになると言われているのです。



ソーラーシェアリング

カーボンニュートラル社会のためには、再生可能エネルギーの拡大が重要です。第7次エネルギー基本計画では、発電量に占める再生可能エネルギーの割合を40～50%とし、その半分強を太陽光発電としています。しかし、太陽光パネルの設置に伴うトラブルもあり、適地が少なくなっています。そんな中、農地の上に設備を設置する「ソーラーシェアリング」の導入が進んでいます。2021年度までに4,000件以上、東京ドーム約200個分を超えたそうです。

ひとこと



2月に開催されたエコフォーラムへのご参加ありがとうございました。私にとっては3回目のエコフォーラムでした。今回当法人が担当する『エコノート継続者認定式』『エコ宣言当選者発表』の場で、初めて司会を務めさせていただきました。朝からとても緊張していましたが、会員の皆さんやエコノート継続の皆さんのいつもの笑顔を見られて、安心した気持ちで挑むことができました。心強かったです！少しずつ暖かい日も増えてきました。近くにお越しの際はぜひ事務局へお顔を見せに来てください。事務局一同(2人ですが)お待ちしております！(田)

ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第85号

令和7年4月1日発行(年4回発行)

発行:(特活)ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サブリー村野 南館2階

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者:井上 浩一 編集責任者:丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 85
春号
令和7年
(2025年)

環境ひらかた



ひらかたエコフォーラム 2025 サブリー村野で開催しました

環境表彰を受けられた方々



サブリー村野での開催が3回目を迎えた恒例の「エコフォーラム」。今年は2月15日に開催しました。フォーラムでは、すっかりお馴染みとなった「環境表彰」「緑のカーテン表彰」そして「温暖化対策の取り組み報告」と続く本イベントは、楽しみながら環境に関心を持ってもらう場であると共に、他団体や会員交流の場にもなっています。今年は約250の方々にご来場いただきました。もう少し多くの方に来ていただければとの思いは残りましたが、成功裏に終えることができました。



我が家のエコノート
継続者の皆さん



エコ宣言当選者の皆さん

令和7年度通常総会のお知らせ

令和7年度の通常総会を下記の通り開催します。

開催日:2025年5月31日(土) 10:30~

会場:環境保全研修室

(サブリー村野環境情報コーナー隣)

詳細は6面をご覧ください



*****目次*****

エコフォーラム開催しました	P1
インターン生紹介	P2・3
部会報告	P4・5
お知らせコーナー	P6
環境トピック VOL.50	P7
環境ミニ知識	P8



森 寛暁
大阪公立大学 1年

活動を通して、環境問題について議論することの難しさを実感しました。企画書づくりの際には様々な意見が飛び交い、全員の考えをまとめるのは大変でした。議論中に何ができるのかを考え、全ての意見に対して完全に同調するのではなく、少しでも疑問や意見があれば伝えるようにしました。結果的には環境問題を考えるきっかけや議論の場での姿勢を学ぶことができ、自分にとって大きく成長できたインターンにすることができました。



7名が揃う珍しい機会、バラバラで話し合っていたことのすり合わせに熱がこもります。最終日まで残すところあと数回！それまでに取り上げた課題“プラごみ問題の解消”に向けた企画書は完成するでしょうか……。期待したいです。



北嶋 結菜
関西外国語大学 1年

活動した2ヶ月間は、貴重な経験となりました。疑問に思ったことは、自ら調べ尋ねたりする姿勢の大切さを学びました。知識がないことを恥ずかしく感じることもありましたが、それは決して悪いことではなく、むしろ分からないことがあれば徹底的に調べるべきだと実感しました。また、一つの情報に偏るのではなく、多角的に情報を収集し、その上で分析することが重要であると考えようになりました。このインターンを通じて得た学びを今後の成長に活かしていきたいと思います。

インターン生紹介！ 社会が抱える

このインターンを通じて変わったことは環境問題についての認識です。今までは自分自身が環境問題について考える必要はないと思っていました。しかし環境問題についての議論や、イベントを通じて、知り理解してからは深刻な問題であることに気がきました。その中で、人々に環境問題の深刻さが理解されていないことが現状であることも知ったので、まず自分自身でできることをやるのが重要であると感じました。このインターンが終わっても環境に対する意識を忘れないようにしたいと思います。



今村 尚哉
摂南大学 2年

環境トピックス

Vol.50

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「第7次エネルギー基本計画が閣議決定」「人工光合成で水素ができる！？」の問題です。

◆第7次エネルギー基本計画が閣議決定

2月18日 第7次エネルギー基本計画が閣議決定されたことは周知の通りです。また今回同時に「GX2040ビジョン」及び「地球温暖化対策計画」も閣議決定されました。この計画の前の計画（第6次）は令和3年10月に策定されましたが、この間エネルギー情勢は大きく変化しています。CO₂排出量は一向に減らず、世界平均気温も単年度とは言え、2023年は産業革命前に比べ1.6度上昇しました。こうしたことから一刻も早く温室効果ガスの削減目標達成に向けたエネルギー政策をとる必要があるのです。

では第7次エネルギー基本計画ではどのような方針が掲げられているのでしょうか。そこでは、再エネ比率を4~5割としています。第6次に掲げられていた「再生可能エネルギーを最優先で取り組む」の文言は削除されてしまっています。加えて、原発について「可能な限り依存度を低減する」という文言も削除されているのです。深刻さを増す「地球温暖化」。そんな中で、CO₂の削減目標達成にはどのようなエネ基が望まれるのか、また達成のためのロードマップはどのようなのか。私たちが関心を向けていなければならないと思います。

◆人工光合成で水素ができる！？

二酸化炭素を出さない「水素カー」が次世代自動車として注目されています。しかしその燃料である「水素」に4種類あるというのを耳にしたことはありませんか。水素はその製造方法により“グレー水素”“ブルー水素”“グリーン水素”“イエロー水素”と呼ばれたりしています。まず“グレー水素”は天然ガスに含まれるメタンと水蒸気を高温で反応させて作るもので、ベースは化石燃料でCO₂が出ます。次に“ブルー水素”と言われているものは、作り方は“グレー水素”と同じですが、排出したCO₂を回収・貯留・利用するというものです。一方“グリーン水素”と呼ばれるものは、再生可能エネルギーで水を電気分解して作ります。また再生可能エネルギーの代わりに原発のエネルギーを使って水素を作るのが“イエロー水素”と呼ばれているものです。ただ、“グリーン水素”は“グレー水素”に比べ数倍のコストがかかるのが課題です。

この課題の解決に太陽光を使った「人工光合成で水素を作る」技術が今注目を浴びています。この製造法が実用化されればコストの問題は解消されるとのことで、期待が高まります。

ひらかたエコフォーラム2025 報告

5項目の「市民宣言」を発表!!

今回温暖化対策の取り組み報告で注目していただきたいのが「枚方から気候変動を考えるひらかたアッチッチサミット」の報告です。

報告の中で、サミットで採択した5項目の「市民宣言」を発表しました。発表後、講評とミニ講演

をいただいたCASAの早川氏から「実に多彩な取り組みをしていることに驚くと共に感心した」「また参加者の意識の高さにも驚いた」との感想をいただき、今後の励みになりました。その感想に応えるためにも、みんなで市民宣言を実践していきたいですね。





お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネットワーク会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

🌿緑のカーテン・マイゴーヤ募集🌿

環境ネットワーク会議では、枚方市と共に夏の暑気対策として緑のカーテンを推奨しています。枚方市では、各家庭で緑のカーテンに取り組んでもらおうとモニターさんにゴーヤの苗を無料で配布します。(詳細は枚方市広報5月号に記載)

環境ネットワーク会議では「家庭でするのは難しい、でも緑のカーテンにチャレンジしたい」といった声に応じてサプリ村野で一緒にゴーヤを育てる「マイゴーヤ」を下記の通り実施します。



定員：15組
申し込み：電話、メール、FAXにてお申込みください
初回作業日：4月25日10:00～

省エネなんでも相談室

「省エネ何でも相談室」が毎月15日に開催されていることをご存知ですか？
「何それ？」「いつからやってんの？」なんて声が聞こえてきそうです。PRが足りていないですね。反省です。実はこの「相談室」第1回を2023年12月15日にスタートしたので1年以上が経つのです。今更ですが、省エネに関することでも構いません。
補助金の情報などもお伝え出来ますよ。
どうぞお気軽に「環境情報コーナー」にお越しください。
お茶とお菓子をご用意して皆さんのお越しをお待ちしています。



令和7年度通常総会開催のお知らせ

ひらかた環境ネットワーク会議は、NPO法人格を取得して来年度20周年を迎えます。そこで今回の総会は「プレ20周年総会」と位置づけ、20周年に向け盛り上げていきたいと思っています。総会后、会員交流会も開催しますので、20周年が盛り上がるようなアイデアをいっぱい出し合えれば嬉しいです。是非ご参加下さい。

日時：5月31日(土) 10:30～ 場所：サプリ村野南館2階 環境研修室
(議案書は5月半ばの発送を予定しています。)



平井 孝英
近畿大学 2年

私は今回主に2つを得ることができました。一つは、環境に関する正しい知識を得ることの大切さです。今まで概要しか知らなかった事についての正確な内容やその背景にある事柄など、このインターンシップで多くを知り、環境問題をより体系的に理解することができました。二つ目は、自分の考えを言語化する力です。インターンの最後に提出する企画書を制作する際、自分の考えをどうすれば正確に伝えられるか、伝わりやすくなるかを話し合いながら進める中で、自分の考えを表現する力をつけることができました。この2ヶ月で大きく成長することができたと感じています。

環境問題を知り、課題解決を真剣に考えました！

2ヶ月間のインターンシップを通して学んできたもののうち、特に印象的だったものは2つあります。1つ目は批判的思考です。正しい情報のもと、根拠が明確にある自分なりの意見を持つことがどれほど大切か学びました。2つ目は、いかに私がリスクを軽視してきたか、ということです。このままでは、私たちの世代が社会を主に担っていく頃に現在危惧されている問題が現実になります。私たちが誰よりも当事者意識を持ち、行動しなければならぬと思いました。



齋藤 那美
大阪公立大学 2年



大田 志音
関西外国語大学 3年

ひらかた環境ネットワーク会議でのインターンシップは、学びの多い10日間となりました。夏が暑すぎる理由やマイクロプラスチックゴミ問題について議論をしたいと思い志願したのですが、知らないことが多すぎて自分の非力さを感じました。しかし会員さんの話やイベントでの交流を通して、地球や地域環境を改善する正しい情報を得ることができ、更にその情報を懐疑的に見るという今後の私の人生に役立つような知識をいただきました。「環境」について考えることは楽しいことだと、より多くの人に知ってもらいたいです。

私は枚方環境ネットワーク会議に来て沢山のことを学びました。まず、私は普段環境について考えることがあまりありませんでしたが、実際に今回参加したことで普段考えない環境について深く話し合うことができました。実際に話し合うと全くわからないことだらけで、新たな発見ばかりでした。知ったことで自分は今まで以上に行動が変わりました。他にも実際に現場に行ったり、そこに参加する市民の人たちの声を聞くことができたので、別の視点からも視野を広げることができました。



今川 海斗
近畿大学 2年

環境ミニ講座・環境ティールーム

身近なことから環境に関心を持ってもらおうと手作りや体験を中心とした「環境ミニ講座」を、そして環境問題についての意見交流の場として「環境ティールーム」を毎月実施しています。今年度最後の「環境ミニ講座」は「省エネ・時短で簡単フルーツ大福」ということで2月27日に実施しました。環境ティールームは2月13日、冬の省エネ問題を参加者と一緒に考えました。新年度の「環境ミニ講座」「環境ティールーム」の企画を目下思案中です。より多くの方々に楽しんで参加していただけるような内容にしたいと思います。皆さんぜひ参加してくださいね。一緒に環境について楽しみながら学んでいきましょう。





部会活動紹介

ひらかた環境ネットワーク会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。



環境教育部会

環境教出前授業での蓄積が活かしたエコフォーラム

2月に開催されたエコフォーラムで、環境教育部会は環境ネットワーク会議のブースを担当しました。来場者に展示の説明やエコドライブ、自転車発電体験をはじめ、シール張りアンケートによる地球温暖化防止の意識調査を自然エネルギー部会と連携し、会員メンバーやインターン生と共に行いました。出展ブースでは毎年出展内容に絡んだクイズを楽しむブースラリーをしているのですが、今回環境ネットのブースの問題が「エネルギー消費の少ない照明は何か」であったこともあり、環境出前授業で使用している「自転車発電」による「白熱球、LED ランプ、蛍光灯」の比較体験をしてもらいました。「LED ランプの方が楽にこげる!」、「この発電機欲しい!」などの感想もあり、多くの方にエネルギー消費を体験を通して実感してもらいました。更に、白熱球、LED ランプ、蛍光灯の消費電力(W)を比較測定する展示により、LED ランプが省エネ効果があり、ライフサイクルコスト、そして二酸化炭素の削減になることも納得してもらえました。このように環境教育部会が日ごろ研鑽を積み環境出前授業で実践していることが、このエコフォーラムでも活かすことができ、来場された多くの市民への環境啓発に繋がったことを実感することができました。今後も環境出前授業で培った得意分野を活かしながら、環境啓発活動にとりくんでいきたいと思っています。

このような体験型環境活動に興味関心のある方は、是非お気軽に事務局までご連絡ください。体験見学も大歓迎です♪

温暖化についてのアンケート



エコドライブ体験コーナー



自転車発電で省エネ比較体験



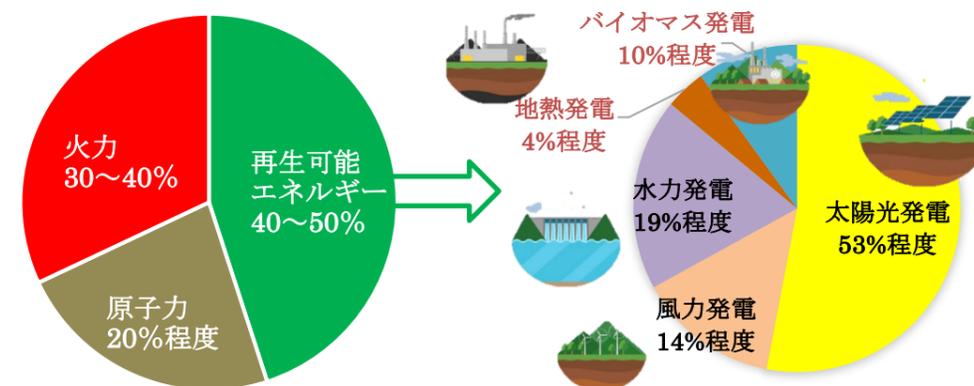
自然エネルギー部会

未来の人達を思い、再生可能エネルギー社会へ再生可能エネルギーへの理解を深めましょう

皆さんもご存じかと思いますが、2040年を目標とする「第7次エネルギー基本計画」が2025年2月18日閣議決定されました。この計画の中で、再生可能エネルギーの発電量全体に占める割合は40～50%とされています。皆さんはこの比率をどう考えますか？社会がカーボンオフへとシフトしていかなければならないにもかかわらず、第6次エネルギー基本計画で掲げられていた「再生可能エネルギーを最優先で取り組む」という文言は削除されました。残念でなりません。皆さんはいかがですか？

2040年におけるエネルギーの電源構成

再生可能エネルギー発電の各構成



ここでの「水力発電」は、ダム形式の大きな発電ではなく、河川、農業用水路等を活用した「小水力発電」の導入が要請されています。枚方市地域には穂谷川、天野川等の河川等もあり、至急にその導入可能性を探ってみることが期待される場所です。さてこのような状況の中で新年度が始まりました。当部会では令和6年度、広く市民の皆さんに再生可能エネルギーについて知ってもらおうと「ひらかた再生可能エネルギースポット紹介パンフ」を完成させました。今年度はその拡充に加え、皆さんと意見を交わすことができる「街宣活動」にも力をいれていきたいと思っています。さらに環境について、子供も大人もみんなが楽しく学べるツールの作成も検討していきたいと考えています。